

春夜しゅんや  
(蘇軾そしやく)

春宵一刻直千金  
花有清香月有陰  
歌管樓臺聲細細  
鯁鞦院落夜沈沈

春宵しゅんしやう 一刻いつこく 直あたひ 千金せんきん

解説 春の夜の静かな情趣を詠じた詩。

語釈 ※春宵||春夜に同じ。※一刻||刻の長さには諸説があるが、

普通は十五分をいう。短い時間をさす。※直||あたひ。ねだん。

※千金||漢代では黄金一斤を一金と叫んだ。千金は大変高価であることをいう。※清香||清らかな香。※陰||月が朧おぼろに霞かす

んでいること。※歌管||歌は歌声。管は管楽器で、笙や笛の類をいう。

※楼台||高い建物。※細細||微かすかに音がするさま。※鯁||ぶらんこ。

※院落||やしき内の中庭。※沈沈||夜の静かにふけてゆくさま。

花はなに 清せい香こう 有あり 月つきに 陰かげ 有あり

歌管かかん 楼台ろうだい 声こえ 細さい々さい

通釈 ほんのわずかな時間が千金もの値うちがある。花には男香りが

ただよっており、月はおぼろにかすみ、なんともいえない風情(ふぜい)である。先ほどまで歌を歌ったり、楽器を奏したりして、

にぎやかだった高殿も、今はかすかに音が聞こえるばかり。中庭には、置き捨てられたぶらんこが一つ。夜は静かにふけていく。

鞦しゅう鞦せん 院落いんらく 夜よる 沈しん々しん